

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 羽島高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月27日(金) 午後1:30~3:30
- 3 開催場所 羽島高等学校図書室  
開催にあたり、新校舎見学を実施した
- 4 参加者

|       |       |                        |
|-------|-------|------------------------|
| 会 長   | 兼松 博之 | 中部学院大学専任講師             |
| 副会長   | 竹中 美環 | 東横INN岐阜羽島駅新幹線南口支配人(欠席) |
| 委 員   | 篠田 仁美 | 本校PTA副会長               |
|       | 住奥 豊広 | 岐阜羽島警察署竹鼻交番所長          |
|       | 林 博子  | 国際ソロプチミスト羽島会長          |
|       | 舛本千佳子 | 羽島の未来を築く会理事長           |
|       | 森山 健  | 竹鼻中学校長                 |
|       | 渡辺 憲治 | 羽島商工会議所専務理事兼事務局長(欠席)   |
|       | 渡邊 丈展 | 本校同窓会長(欠席)             |
| 学 校 側 | 後藤周太郎 | 校長                     |
|       | 野田美奈子 | 教頭                     |
|       | 中川 弘之 | 事務長                    |
|       | 中田 啓士 | 教務部長                   |
|       | 浦部 陽  | 進路指導部長                 |
|       | 野中かおり | 生徒指導部長                 |
|       | 浅野 宗生 | 特活指導部長                 |
|       | 久保田千穂 | 保健厚生部長                 |
|       | 小塚 浩二 | 図書渉外部長                 |
|       | 内海 奈美 | 地域課題探究型学習推進事業担当        |
|       | 村知 崇弘 | 地域課題探究型学習推進事業担当        |

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 生徒指導部より 高校生活のルールとマナーについて

意見1: 「フォーマル」という言葉は、よい表現である。校則に定める靴下の色を、生徒たち自身で考えさせることも自主性の観点からよい。

#### (2) 各分掌より 令和4年度の成果と課題について

##### ① 教務部

意見1: ICTを活用した学習は、効率的に授業を進められる。小学生もタブレット端末を自宅に持ち帰っており、自宅で授業の様子を見ることができる。本校では、タブレット端末の活用はどのような状況か。

⇒ 通学時の運搬、自宅での管理の点から、今年度は持ち帰りをしていない。授業中にタブレット端末を活用している。

② 進路指導部

意見1：生徒は、実際の社会での体験談を先輩から聞くと、イメージをつかみやすいのでよい。若い世代の卒業生の話の聞くとよい。

⇒ 「先輩と語る会」という行事を実施している。一人の先輩に対して20名の生徒が話を聞く形態で行っている。

③ 生徒指導部

意見1：MSリーダーズが活動しているとき、生徒指導担当の教員が、積極的に生徒へ声をかけている。今後も、この活動を継続してほしい。

④ 特活指導部

意見1：令和5年度は、地元の行事「竹鼻まつり」を実施する予定である。Sクラブ、生徒会の生徒たちと祭りの主催者側で連携して取り組んでほしい。生徒たちの自主的な企画を期待している。

⑤ 図書渉外部

意見1：普段、校舎に入らないと分からないことが、PTA活動に参加することで学校の状況が理解できるのでよい。

(3) 地域課題探究型学習推進事業について

意見1：地域課題を研究すると、その取組の中で気付きがあることも大切である。また、グローバルな視点で研究できるとよい。地元の羽島市、岐阜県を知ることは大事である。地元を理解したうえでのグローバルとなる。本校生徒が研究し、関わる中で理解することだけでなく提案できるところまで進めていくとよい。

(4) 本校への意見、提言等

意見1：生徒生活実態調査の中で、「目的をもって入学したか」の問いに、毎年度30%前後の生徒が「明確な目的をもたず入学している」と回答している。しかし、入学後の学校生活について「積極的に取り組んでいるか」という問いでは、3年生の多くの生徒が積極的に参加できた様子が、データから読み取れる。高校受検の際は、明確な目的がなくても、高校に入学してから自分がどんな学校生活を送りたいのか考え、積極的に取り組むことができれば、大変よいことである。

6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会において、今年度の各分掌の成果と課題について学校側から説明し、全委員が確認した。
- ・様々な視点の意見から改善が必要なところは速やかに対応し、今後の学校運営に生かしていきたい。